



MP RACING

SUPER TAIKYU RACE IN AUTOPOLIS

ENEOS SUPER TAIKYU SERIES 2022 Powered by Hankook

Round 4

カテゴリー	: ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook ST-X クラス	公式予選 A Dr.	: 2'08.605 (ST-X クラス 8 位)
エントラント	: MP Racing	公式予選 B Dr.	: 1'59.071 (ST-X クラス 2 位)
カーナンバー	: 9	公式予選 (A/B 合算)	: 4'07.676 (ST-X クラス 8 位)
マシン名称	: MP Racing GT-R	公式予選 C Dr.	: 2'03.621 (ST-X クラス 7 位)
ドライバー	: JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・篠原拓朗	公式予選 D Dr.	: 2'03.797 (ST-X クラス 1 位)
大会名称	: ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook 第 4 戦 スーパー耐久レース in オートポリス	決勝	: ST-X クラス 6 位 (5'03'49.238 / 144 周)
レース時間	: 5 時間		
開催地	: オートポリス (大分県)		
開催日	: 2022.7.30~2022.7.31		
天候	: 曇り / 雨 (7.30) 雨 / 曇り (7.31)		
イベント動員数	: 2,800 人 (7.30) 3,150 人 (7.31)		





スーパー耐久シリーズ第4戦”スーパー耐久レース in オートポリス”が7月最終週となる7月30日(土)~31日(日)に開催。シリーズ戦折り返しとなる今回のレースは大分県のオートポリスを舞台に争われる。

オートポリスは阿蘇外輪山に近くに位置し、山の地形を活かしたアップダウンの激しいコースレイアウトが特徴のサーキット。約800mの標高の高さもあって、オートポリスは天候が変わりやすく、急な天候の崩れ、またこの時期は晴れた時は酷暑となることもあり、ドライバーのみならず、マシンやチームスタッフにとっても過酷なコンディションになりやすいサーキットだ。

そのオートポリスで開催される今回の第4戦、MP Racingの参戦するST-Xクラス(ST-X)は今期最大となる9台が参戦。強力なライバル勢が揃う中、MP RacingはJOE SHINDO、柴田優作、影山正美、篠原拓朗のレギュラードライバーでエントリーした。

7月30日(土) 予選

午前中行われたフリー走行では曇り空ではあったがドライコンディションで行われた。

しかし午後になり、予選が開始される直前に雨が降り出し、ウェット宣言が出される事に。

突然の降雨により悪化したコースコンディション、そして赤旗中断と、JOEの予選アタックは厳しい状況となってしまう。この予選で2分08秒605をマークしST-X8位につけた。

続いて行われた柴田は渾身のアタックを見せ、1分59秒071で2位。惜しくも首位から僅か0.189秒及ばず。

今回のBドライバー予選はトップから5位までが1秒以内の差となる緊迫した予選だった。

結果、MP Racingの予選は合算タイムが4分07秒676でSTX8位となった。

続いて行われたC、Dドライバー予選。影山と篠原が決勝に向けての準備を行いつつ基準タイムをクリアし全ての予選が終了した。

NILZZ
RACING FACTORY

ENDLESS

Hankook
driving emotion

CURIOSITY Ltd.

TONE

FUNKY'S
CATERING STATION

nismo

MOTUL

Mizuno

SUMMIT CARS

GO&FUN
GREEN ENERGY DRINK

株式会社 ご縁門
Reform & Renovation



7月31日(日) 決勝

決勝日のオートボリスの天候は曇り。

所々雨雲らしいものが見られるが、スタート直前ではまだドライコンディションだ。

スタートドライバーは JOE が担当。

スタートして 20 分が過ぎた頃から雨粒が落ち始め、ワイパーを作動する車両の姿も見られ出した。

JOE はコースコンディションの変化に気をつけつつ、一定のペースで走行を重ね、ジェントルマンドライバーの義務最低運転時間である 1 時間を走り切って、28 周目にピットイン。柴田にドライバー交代を行う。

雨はウェットタイヤを必要としない位の量ではある為、このピットストップではスリックタイヤを装着。

コースに復帰した柴田は良いペースで周回を重ね、前車とのギャップを削っていく。

50 周目に 81 号車 GT-R を交わし 6 位に浮上。

柴田も約 1 時間強を走行し、61 周目に 2 回目のピットイン。影山に交代した。

影山のステントの終盤、コースの一部で雨が降り出す。

とても難しいコースコンディションではあったが、影山は燃費、タイヤを巧みにマネジメントし、約 1 時間 30 分のロングステントを行った。

レースは残り約 1 時間 20 分。107 周目に最後のドライバーチェンジのためピットイン。篠原に交代した。

112 周目、コースアウト車両排除の為、フルコースイエロー (FCY) が宣言が出される。

FCY 解除直前、コース状に大粒の雨が降り始めた。雨は一気に強く降り出し、コース上を濡らす。

スリックタイヤを装着している篠原はペースを落として走行。

この時点ではコースの場所によって濡れ方に差があり、スリックタイヤでのペースもまだウェットタイヤと差が無い状況。

MP Racing は篠原にステアアウトを指示。

コントロールの難しい状況下で篠原はマシンを上手くコントロールしつつ周回を重ねていった。

NILZZ
RACING FACTORY

ENDLESS

Hankook
driving emotion

CURIOSITY Ltd.

TONE

FUNKY'S
CATERING STATION

nismo

MOTUL

Mizuno

SUMMIT CARS

GO&FUN
GREEN ENERGY DRINK

株式会社 ご縁門
Reform & Renovation



レースも残り 30 分となって、雨量が更に増した。

ストレート上では水飛沫が高く上がるようになり、これ以上スリックタイヤで走行を続けることは無理だと判断。

134 周目にピットインを行い、ウェットタイヤに交換した。

その後 144 周を終えた篠原は残り時間を確実に走り切り、チェッカーフラッグを受け、ST-X6 位でフィニッシュした。

レース終盤は非常に難しい状況でしたが、ドライバー、チームスタッフ全員の頑張りがあった、今回も無事完走を果たしました。

しかし結果は我々が望んだものとはなりませんでした。

チャンピオンシップを考えると非常に厳しい状況となりましたが、次戦は MP Racing のホームコースであるモビリティリゾートもてぎ。

地元レースであるが故に、より一層強い気持ちで優勝を目指して頑張ります。

引き続き、皆様のご声援、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

